

や法人が、働く人のために整備した施設を地域に開放する動きが広がっている。この保育施設で近隣の子どもを預かった職場参観に地域の小学生を招いたり、生から社会貢献、地域交流につなげる

(辻阪光平)

# 業の福利厚生 地域に



域の子どもも受け入れている「プティツ岡崎保育ルーム」(愛知県岡崎市で)

## 保育ルーム開放／「町内活動」で特別休暇

企業が自主的に取り組む福利厚生施設などの「法定外福利費」は1996年度をピークに抑制する傾向だ。日本経済団体連合会が688社から回答を得た調査(2011年度)によると、企業が負担する従業員1人当たりの1か月の福利厚生費は平均10万3298円。そのうち、法律で義務付けられている社会保険料などの「法定福利費」

### 「社会との接点増え 人材育成になる」

が前年度比4.4%増に対し、法定外福利費は同0.1%減だった。企業や個人の社会貢献活動を推進している公益社団法人日本フィランソロピー協会(東京)理事長の高橋陽子さんは「企業が福利厚生を活用することで、社会との接点が増え、従業員の人脈が広がり、コミュニケーション力も磨かれる。人材育成に結び付くことを企業はもっと意識すべきだ」と話している。

安全性など一定の社内基準を満たした施設を地域に開放、今年5月現在、52か所になる。ヤクルト本社広報室は「自治体の要請で開放した施設もある。企業ブランドの向上に

もつなげれば」としている。活用するのは、施設などのハード面だけに限らない。京葉銀行(千葉市)が行員の子どもを職場に招く「子ども参観日」。親の仕事への理解を深めようと4年前から行っているが、昨年、参加対象を地域の小学生に広げた。銀行の仕組みや役割を知ってもらえるように、貸金庫を

見学したり、模擬紙幣を数えたりする体験型だ。今年は7〜8月に2支店で行い、近隣の4校から3

読売新聞暮らし面  
平成25年8月24(土)掲載

「銀 行に親しんでもらうきっかけにもなれば」(経営企画部広報グループ)と話す。

休暇制度を柔軟にし、地域活動を促す取り組みもある。岡山県井原市で「ケアハウス四季が丘」を運営する社会福祉法人「恭和会」は2年前、特別休暇の規定を改訂し、取得理由に「町内会など地域活動への参加」を加えた。年に5日間取ることができると、職員88人の中には、町内会の役員が少なくないという。これまでに「祭りの準備」「地域の草刈り」「町民運動会への参加」など13件の利用があった。同法人はケアハウスを地区の夏祭り会場に提供しており、担当者は「近所づきあいはもちろん、職員の生活にとっても有意義のよう」と説明している。

70代 彼女と私、誘って一緒に出かけたい。心を許しあえる楽

「変戸惑う」

加しているかどうかを聞いてただけなのに、急に立ち上がり「この人は私にはっかり聞くのよ」とみんなに言うのです。彼女が持参した菓子袋をみんなに回す時にも、私には一言も声を掛けません。彼女の気に障るような言葉を言ったり、

## 必者身

蟻のいとなみ(十)

柳本へむかう雪道からが草鞋の底の毛皮を通りた足を冷やし、疼くほどるのがわずらわしい。助本で正月を迎えるのをよであつた。

「お師匠はんのお屋敷へ帰るような気がするんだが、助七がいうと、東右衛門です。」

「ほんまに、わたいもおぢやなんやろ。親きょうが家を焼かれてしもたけど、達者に仕事してると聞いて、して逢いにいきたいともそやけど柳本へゆくのがな気がしてなりまへん」

「それはなんでやろ」

「それはなんでやろ」

「なんでだっしやろなあ、お家はん、ご新造はん。優しゅう扱ってくれははり」

「そや、おすきはんの人に聞きとつおまっせ」